

ほんまるあと じょうない ほくたん とうざい なんぼく
本丸跡は城内の北端に位置し、東西約 190m× 南北約 90m の
きぼ ど ぼし れんけつ うまだし しょうき ぼ くるわ
規模で、西側には土橋で連結した馬出と呼ばれる小規模な曲輪が
ふぞく はんしゅ おなり ぎょうせいせつ
付属しています。本丸内には藩主の御成の場であり、行政施設で
もあるほんまる ごてん 本丸御殿が建っていました。本丸への入り口は西側のにしご
もん だいどころもん 西御門・南側のふくげん 台所門の2つがあり、現在西御門は復元されています。

これまでに西御門復元整備関連やレーダー探査、御殿跡の内容
かくにん ちょうさ
確認などで 10 度の調査が行われています。西御門跡の調査では、
門の規模は東西 6.4m× 南北 5.6m で、石の上に柱を建てた礎石
たてもの せき じょう せき
建物と分かりました。西御門付近の土塁や土橋などでは石垣や石
うらごめいし しぜんせき つ あ のづら
垣の裏込石も見つかり、石垣は自然石をそのまま積み上げる野面
ず こうちく
積みで構築されていたことが分かりました。御殿跡の内容確認調
査では直径 1m ~ 1.5m 程度の円形の石の集まりが連続的に見つ
ていど えんけい れんぞくてき
かり、これは礎石の下の根固めの栗石で、御殿の土台跡と考えら
ねがた ぐりいし ど だいあと
れ、建物の規模や位置の判断材料になります。出土遺物は陶磁器・
はんだんざいりょう しゅつど いぶつ とうじき
はさみ・キセル・古銭などがあつたほか、かわら くぎ けんちくしざい
瓦や釘などの建築資材

もみつかりました。

げんざい こうえん
現在は公園として
かつよう
活用されていますが
とうじ しろ
このような当時の城
こんせき
の建物の痕跡が地面
ねむ
の下に眠っているの
です。



本丸御殿の土台跡（令和 3 年度調査）